

平成 29 年度滋賀県立甲西高等学校学校評価 分析と改善策

1 学校経営

- 「部や学年などの分掌間の連携が円滑に行われている」

この項目では、教職員の肯定的評価は中間評価では 81.4%であったが、総合評価では 70.7%と評価が A から B に下がった。

昨年度は中間評価 77.8%から総合評価 84.6%と肯定的評価は向上していた。人事異動に伴い転入者が増え、新転任者オリエンテーションは実施されているが年度が進むに伴い本校の従来からのやり方等に戸惑うことが多くなり、各々の連携が不十分なことが原因であったように考えられる。学校評議員会での指摘もあり、主任等を中心に各分掌間や教職員間でのコミュニケーションを取り連携を図っていくように、教職員一人ひとりが努めることを確認した。

2 学習指導

- 「授業の方法や内容を改善し、生徒に分かる授業を行っている」

この項目での教職員の肯定的評価は 92.7%。保護者の「学校はわかりやすい授業を行っている」で 68.4%。これに対して生徒は「生徒が興味関心を持つような授業が行われている」で 45.7%、「授業はわかりやすく、丁寧に行われている」で 63.8%と肯定的評価は低かった。

- 「家庭での学習習慣を身につけさせる工夫をしている」

この項目での教職員の肯定的評価は 82.9%。保護者の「学校は子どもが家庭学習できるよう課題等を出している」で 81.5%。これに対して生徒は「ふだんから学習計画を立てて勉強している」で 32.6%、「授業の予習復習のため家庭学習をしている」で 36.9%と肯定的評価は著しく低かった。

昨年と同様に教職員は適切な指導をしている自覚があるが、実際には生徒と保護者の受け止めと大きな乖離があることが数値から明らかになった。学校評議員会でも指摘があったように、教職員の自己満足で教職員の指導が生徒の主体的な学びの成果として反映されていないことを謙虚に反省し、さらに授業改善を進め、魅力的な授業づくりに取り組んでいく必要がある。

昨年度から県を挙げて「学びの変革」として授業改善に取り組んでいる。本校でもコアティチャーを中心に授業改善に努力しているところである。公開授業研究週間を年 2 回設け、お互いに授業参観をして研修を深めるよう設定しているが、実際は参観率も低く形式的なものとなっている現状がある。しかし、アンケートの結果からは、授業改善の取り組みがまだまだ不十分であることがうかがえる。

今後も、そのスタンスを変えることなく、継続して授業改善に取り組み、「生徒が主体的に安心して学べる授業」を目指し、生徒の学習意欲を引き出す努力を続けていく必要がある。

来年度に向け、既に教務部で公開授業期間の抜本的見直しの検討に入っている。

また、家庭学習については、現在の課題提出が家庭学習の定着に結びついていない。効果的な課題の出し方や量のバランスを見直すとともに、提出することが目的とならないよう、生徒の自主的な学習意欲を高める方法も模索したい。定期的に生徒アンケートを実施し、家庭学習の実態把握に努めるとともに教員と生徒・保護者間の肯定的評価が乖離している原因究明に努めたい。

6 学校図書館

- 「図書や図書館に関する情報を発信し、読書を奨励している」

この項目での教職員の肯定的評価は 92.7%。保護者の「学校は通信等で子どもの読書への関心を高めている。」で 65.6%。これに対して生徒は「生徒が興味関心を持つような授業が行われている。」で 45.7%、「配付される図書新聞の新着本・話題本紹介などを見ている」で 47.8%、「図書館を利用したことがある」は 68.3%と肯定的評価は低かった。

モバイルによる電子本の普及により、紙媒体である本の利用が減少している社会現象に影響を受けているが、保護者と生徒の肯定的評価は大きな変化はなく推移している。図書館では、毎月の図書新聞の発行、行事に合わせた参考本のコーナー、図書館入り口周辺に本の紹介をする等、担当者の努力は続いている。今後、教科での利用促進等図書館の利用を勧めていくよう努める。

9 環境学習

○「日常的な清掃指導を通して美化意識を高めるとともに、教科指導等で環境保全に対する意識の啓発に努めている。」

この項目については、昨年と同様に生徒の肯定的評価が一様に低い。肯定的評価は昨年度より生徒が3.2%、保護者が4.2%ずつ、どちらも低くなった。

学校評議員会で、廊下のごみが目立つやトイレがきれいではないとの意見があった。校舎が古くトイレは磨き甲斐のないタイル張りであることがきれいに見えない要因のひとつであることは否めない。しかし、掃除の時間帯の確保が授業、行事等の終了時間により十分に確保できなかったことも要因であると考えられる。日課表に掃除時間帯があるが、授業終了時間等がまちまちになり、教職員の中に統一して実施する認識が薄れてきていることも要因のひとつであると考えられる。教職員に環境教育を授業の中で十分実施できていないという自覚があることも否めない。一方、学んだ中のどの部分が環境教育なのかを理解できていない生徒が相当数いることも予想される。

今後も、統一した掃除時間の確保、日常の授業において郷土の環境に関わる教材に触れるたびに、教職員が適宜生徒に環境美化についての意識啓発に努めることで、生徒に環境保全の大切さの理解に努めたい。

11 その他学校の取組

○「学校生活の情報を生徒・保護者に提供して、家庭との連携を図っている。」

保護者の「学校は保護者との連絡を密にしてくれるので安心して任せられる。」の肯定的評価は60.0%と昨年と同じ割合となった。

こまめに保護者との連携を図っていくとともに、保護者が気軽に担任に相談できる環境作りも必要である。また、生徒の「学校からの配布プリント、学年通信、PTA 広報などを保護者に見せている。」も肯定的評価65.3%にとどまっており、昨年度より2.2%さがっている。3割強の生徒は配布物を保護者に見せていないのが実情である。

○「学校はホームページ・広報・通信等で学校の様子をよく発信している。」

昨年度からわずかに上回った。

学校ホームページについては、昨年度担当者の交代もあり更新に手間取ったため、情報発信がうまくできなかったことから大きく低下した。今年度は、担当者の対応もスムーズになり、学校ホームページの更新が定期的に行えるようになってきた。WEB ページや通信等での情報発信は重要であり、努力していきたい。また、生徒に対しては、学校からの配付物は必ず保護者に見せるよう繰り返し指導するとともに、保護者にもPTA 総会や進路説明会等で、配布物の確認をするようお願いし、学校情報の確実な伝達に努めていきたい。